

# 離職10万人 意識の壁

午前5時、三重県菟野町の会社員、位田弘さん(57)の朝は母親(90)のおむつ交換から始まる。2年前に寝たきりになり、現在は要介護4。パート勤めの妻と在宅で介護を続ける。

本人が家族の顔を認識できる間は自宅で介護する、と決めていた。それでも就寝前まで付き添うのは疲れた身体にはこたえる。週2回のデイサービス利用料など月5万円

の負担も軽くはない。制度利用し分担

なんとか仕事と介護を両立できているのは、会社の時差勤務制度があるから。出勤を1時間早め、その分早く帰宅する。妻と介護を分担でき、病院に連れていくこともできる。「たった1時間でも、制度がなければ夫



## 家族と介護

—中—

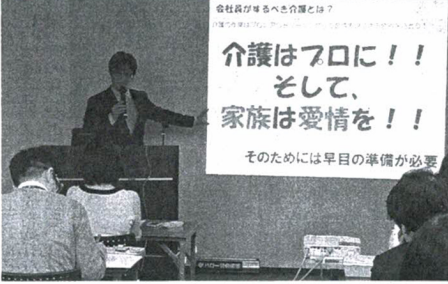
婦で潰れていたかも」

位田さんが勤務する大和ハウス工業は介護休業や時短勤務の期限をなくし、何年でも取得できるようにした。昨年4月から時は差勤務を導入。遠距離介護の交通費を支給するなど介護する社員を支える。

同社の社員の3割が45歳以上だ。親の介護が実感を伴ってとらえられる世代。佐伯佳夫人事部長は「いずれ一人っ子が多いい世代が管理職になる。離職が続けば会社にとって大きな損失」とい

NPO法人「となりのかいこ」が開いた人事担当者向け介護離職防止セミナー(1月、東京都渋谷区)

会社員がやるべき介護とは？  
介護は7割に！！  
そして、  
家族は愛情を！！  
そのためには早目の準備が必要



## 「昇進に響く」両立難しく

それでも両立のハードルは高い。

「施設に入れたいのに」「甘えている」。父親の介護のために東京都内の食品会社に転職した渡辺紀夫さん(51)は

定時に帰ろうとする度、同僚らから非難された。父の様子を聞くため自宅に電話をかけ、「なんで毎日電話するの」と言われたこともある。

法律で義務付けられた介護休業を上司に相談すると「そんなものはない」。2年ほど勤め、最後は体調を崩し退職した。「制度を使える雰囲気

がなければ意味がない」。渡辺さんの実感だ。復職見据えて

NPO法人「となりのかいこ」(神奈川県伊勢原市)の川内潤代表によると、「家庭の事情を持ち込めない」「昇進に響く」と介護休業などの利用をためらう人が多い。川内さん企業や職場の意識改革とともに、家族で抱え込まないことの重

要性も訴える。「休業中は復職を見据え、自分でできること他人に任せるところを考えると活用すべきだ」とアドバイスする。

経験をもとにした支援の形も。サイト運営「エキサイト」は昨年、家族を介護職経験者らとマッチングするサービスを開始した。通院の付き添いや家事を1時間2千円前後から頼める。

発案した同社の有沢真悠子さん(35)は祖母の介護を経験し、働く人の目線に立ったサービスが少ないと感じた。「多様なサービスが広がれば、離職を防ぐ有効な手立てになる」

総務省の調査(2012年)によると、働きながら介護する人は約290万人、介護で離職した人は年約10万人に上る。と知恵を絞る。